



学生相談室 相談員
政治経済学部准教授
水戸部 由枝



オープンマインド

「学生の中退防止」への社会的関心が高まっています。厳しい校則のもと日々授業と部活に追われる高校生活から突然解放され、授業、サークル、アルバイト、趣味など、生活スタイルやリズムをすべて自分で決められる大学生活。さらにひとり暮らしが加わると、これこそ「パラダイス」と感じるかもしれません。しかし自由な選択と行動には、これまで経験したことのない責任がともないます。一回だけ休むつもりが授業ばかりか学校に行かなくなり、単位不足で卒業がやうくなる。あるいは、講義やゼミ、サークル、アルバイト、長短期留学などをつうじて、学年や世代、地域や国を超えた人との交流が一挙に広がったものの、うまくコミュニケーションがとれないなど、いざ「七転び八起き」の精神で生活を立て直そうと思っても、なかなか一歩を踏み出せず、もどかしいと感じる時があるでしょう。

文部科学省が2012年度に1,191校(回答校1,163校 回答率約97.6%)を対象に実施した調査結果「学生の中途退学や休学等の状況について」によると、中途退学者は7万9311人(2.65%)

参考資料：『読売新聞』(2018.5.22, 夕刊)
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/10/_icsFiles/afieldfile/2014/10/08/1352425_01.pdf
https://berd.benesse.jp/up_images/textarea/04_daigakusei_sec1_P17_29.pdf 22頁。

と、前回2007年度の調査時より25%増加しました。退学理由としてもっとも多いのは「経済的理由」で20.4%(16,181人)、次いで「転学」15.4%(12,240人、前回14.9%)ですが、「学業不振」の14.5%(11,503人、前回12.7%)と「学校生活不適応」の4.4%(3,461人、前回5.1%)を合わせると18.9%、私立大学に限定すると19.5%にもなります(国立大学は13.3%)。学生が快適な大学生活を送るために、今、大学に求められていることは何か。経済的支援、学習方法や学生生活の指導ももちろん大切ですが、まず必要なのは、学生が気軽に集い、考えや意見、悩みを率直に打ち明けられる空間づくりではないでしょうか。

授業や対人関係などで悩みがあるとき、もっと有意義な大学生活を送りたいと考えているとき、駿河台キャンパス「ランチアワー」(月～木曜日) / 「ティーアワー」(月～水・金曜日)、和泉キャンパス「ランチアワー」(月・水・木曜日) / 「ティーアワー」(火・水・金曜日)を利用してはいかがでしょうか。教員や仲間と会話するなかで、言葉にならなかった悶々とした感情の原因やストレス解消法など、自分にとっての新しい発見があるかもしれません。

学生相談室について

- 駿河台キャンパス…… 大学会館2階 TEL: 03-3296-4217
- 和泉キャンパス…… 第一校舎2階 TEL: 03-5300-1178
- 生田キャンパス…… 中央校舎2階 TEL: 044-934-7619
- 中野キャンパス…… 低層棟4階 TEL: 03-5343-8080

開室時間

月～金 10:00～17:00 土 8:30～12:00(原則隔週)

- 相談の予約は開室時間内に来室、または電話にてお受けします。
- 予約状況などから、面談が翌日以降になる場合もありますので、ご了承ください。
- 夏期休暇中、入試期間中など開室時間を変更する場合がありますので、ホームページをご確認ください。

<http://www.meiji.ac.jp/soudan/>